

## 「『アッバ、父よ』と呼ぶ霊」

2018年09月25日

ローマの信徒への手紙 8章12節～17節 それで、兄弟たち、わたしたちには一つの義務がありますが、それは、肉に従って生きなければならないという、肉に対する義務ではありません。肉に従って生きるなら、あなたがたは死にます。しかし、霊によって体の仕事を絶つならば、あなたがたは生きています。神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に証ししてくださいませ。もし子供であれば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。

神は、人間の罪を取り除くために御イエスを罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断された。このイエス・キリストと結ばれた者は、イエス・キリストを死者の中から復活させた神の霊を宿し、肉ではなく、霊に従う者となり、命と平和に与る救いを得る。パウロは、この救いを得た者には一つの義務があると言う。それは、肉に従う義務ではない。肉に従って生きる者は死ぬ。神の霊に導かれて生きる、霊に従う義務である。「神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。」イエス・キリストに結ばれた私たちは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子となる霊を受けたのである。「この霊によってわたしたちは、『アッバ、父よ』と呼ぶのです。」この霊は、わたしたちが神の子どもであることを、霊と一緒に証ししてくださる。子どもであれば、相続人である。「神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。」パウロはガラテヤ書4章5節～7節でも、「律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。あなたがたが子であることは、神が、『アッバ、父よ』と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです」と書いている。律法の支配から贖い出された者は、神を「アッバ、父よ」と呼ぶ霊を受けた、神に愛された子である。子は相続人でもある。また、ヨハネ福音書15章14節、15節で、主イエスは弟子たちに、「もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである」と語っている。主イエスの言葉を聞いて、信じる者は、主人の心を知らない僕ではなく、神の心を知らされた主イエスの友である。

ところがパウロは、神の子として、キリストと共同の相続人になる者は、「キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです」と言う。この言葉がパウロらしい言葉である。パウロは、キリストの十字架の苦しみと死にあやかりながら、復活に達したいという望みに生きていた。イエス・キリストの十字架と復活によって既に、罪が赦され、義が宣告され、命と平和を得ている。しかし、人間の罪は限りなく大きく、キリストと同じように罪を担って苦しまなければ、罪を乗り越えられない。乗り越えるための苦しみを、「キリストと共に苦しむ」と言っている。だから、パウロの言う「共に苦しむ」とは隣人への愛である。愛するために苦難を負う時、神の栄光を受け、臨在のキリストと隣人と共に喜び合うことができるのである。